

# 創建

そうこん

巻頭言：湯本長伯・1

第8回キッズデザイン賞受賞（浦部・平野）・2

第31回福島建築文化賞・第35回東北建築賞受賞（阿部・秋月）・3

アートと建築の創作を通したFUKUSHIMAの情報発信・4

第57回日本大学工学部学術研究報告会・5

修士論文発表会／卒業研究発表会・6

寄稿論文等／学術発表／教室ニュース・7

卒業式・修了者の表彰者／卒業設計展示と受賞作品・8

2015・3・25 VOL.49 NO.4（通巻154号）

■ 日本大学・工学部・建築学教室 ■

今年も年度末・年度初めの季節となった。卒業して社会に出て行く人もあれば、新しく入学してくる人もある。別れと出会いの季節でもある。今回は、戦後日本のインフラストラクチュアがかなりの危機に瀕していることを踏まえ、そうした戦後日本社会の問題点に対して、建築技術者が出来ること為すべきことを考えてみたい。1996年から2003年まで、日本大学工学部建築学科の大学院講師として講義を持たせて貰っていた時、我が国の建築業界は深い不況の海に沈んでいた。いま私は就職委員を務めているが、当時の就職状況はかなり悲惨なもので、九州大学教授として何度も地元の企業に足を運んでお願いしても、なかなか採用しては戴けず特に女子学生が非常に厳しい扱いを受けたことを今でも忘れ得ない。建築を志す人も激減して、寂しい想いをする毎日であった。

しかしその中でも色々な変化が始まっていたので、その頃から「空間革命研究会」というものを始めた。当時関係していた病院のシステム（建築という容れ物だけでなく、様々な要素機能を含んだ病院全体の仕組み）を考える中で、電子カルテが次第に本格的に普及し始めると、伝票を持って廊下を駆け回る看護士さんの姿は激減し、サーキュレーション空間も含めて平面計画に大きな変化が出つつあった。同様のことは美術館博物館でも学校建築でも始まり、私の前任校の創立者で学長であった吉武泰水のグループが確立した「建築計画学」の成果＝設計資料も、社会（ニーズ）の変化と技術革新等（シーズ）の変化により、相当な見直しが求められつつあった。2013年に10年振りに本学に戻って来た時には、上記の研究会も様々な人が加わった上で、日本建築学会の研究会として色々な成果も出るように

なっている。しかし研究の進め方として、実は大きな問題点が横たわっている。

一方で、高速道路の天井が落ちて尊い人命が失われる事故のように、先の東京五輪に象徴されるような超特急の工事で造り続けて来た我が国のインフラがあちこちで破綻に近づき、その危険を考えると愚図愚図している訳には行かず、急いで目の前の対応を行い安心安全な社会を再建しなくてはならない。既に行われた種々の検査や試験工事等によれば、そこに必要な工事量はかなり膨大なもので、それに必要なお金も必要な技術者も資材も相当な量であり、簡単には出来ないものとなっている。

## 社会インフラの危機と 建築技術者の役割

教授 湯本長伯

これを考えると建築技術者の為すべき仕事は膨大で、仕事が無い就職先が無いという時代は全く過去のものとなったかのようなものである。これから幾ら頑張っても、2020年の東京五輪までにせねばならないことは膨大で、しかもその後過去の後始末もしながら社会を維持して行くことになる、とてもではないが今後半世紀以上、とてもやり切れない仕事が残っているからである。しかしここにも前記と同じ大きな問題点が横たわっている。

それは一言で言えば、我が国社会の未来の姿が見えないということである。社会インフラで言えば、何から何まで片端から直してしまっているのか、それは本当に必要なのか、

それが良く分からないということである。一人一人に話を伺えば、何方も早く治して下さいと言われるであろう。それは当然である。しかし少し視野を広げて見直してみると、僅か数人しか住んでいない谷の向こうの集落まで、立派なコンクリートの橋を架け直す必要があるのか？あるいは架け直す力が我が国社会に残っているのかという疑問が生じる。明日に全てを委ねて走って来た我が国社会が、いま初めて社会構造の設計を本気で考えねばならない時代に入っている。しかも「空間革命研究会」に関して触れたように、社会の側でも大きな変化が否応なく生じていて、過去に造ったものをただ作り直すだけでは全く解決にならない時代にもなっている。いま各地で生じている改修設計や建て直しのプロジェクトに関して、アドバイザーや関連委員会委員を依頼されることも多いのだが、何も考えずに改修されるようとする場合には先ずこの点を強調して、出来る範囲で将来計画と一緒に考えて、それから計画を進めるように努めている。このところ福島県浜通りのK病院や静岡県M美術館などに関わっているが、うっかりただ進めてしまうと大変なことになりますよと言って、煩いと思われても未来に残す問題をなるべく小さくしようと努力しているところである。その中で考えることは、建築技術者にとっていま最も必要なことは、新しい技術の習得や適用ではなく、建築の原点に戻って「社会はどう在るべきか？」を考えて行くことだと思うのだが、若い方々はどうかどう考えるだろうか？

社会に出て日々の仕事に頑張ってください。でも「この社会はどう在るべきか？」を考えることも、忘れないでください。入学して設計演習の初めに悩み考えた、あの日に戻って。

## 第8回キッズデザイン賞受賞

浦部 智義

非常勤講師 平野 由朗

この度のキッズデザイン賞を受賞に際して、プロジェクト関係者一同で喜んでおります。本学部関係では2件、子どもの産み育て支援デザイン/地域・社会部門で『ふくしま子ども環境プロジェクト』と、子どもの未来デザイン/感性・創造性部門で『かつしか風の子保育園・学童保育クラブ』でした。前者は活動、後者は建築を通して評価されたわけですが、今後に向けては各々違った意味を持ちながらも「ロハスの工学」という視点では、良い意味でお互いを補完し合える関係にある気がしています。

### ■ふくしま子ども環境プロジェクト

詳細に関しては、本学ホームページ ([http://www.ce.nihon-u.ac.jp/koho\\_plus/2014/09/8.html](http://www.ce.nihon-u.ac.jp/koho_plus/2014/09/8.html)) でご高覧頂くとしまして、学内の学科の枠を超えた多数の先生や研究室が参加している『ロハスの工学による郡山キッズ健康増進プロジェクトチーム』と、学外の小児科医はじめ子ども・子育ての専門とする集団『NPO法人郡山ペップ子育てネットワーク』が連携して、学生さんも含めて様々な立場の人が幅広く参加して活動が展開できたことは、真に協働作業であった様に思います。

### ■かつしか風の子保育園・学童保育クラブ

概略は、0歳児～5歳児を対象に異年齢保育を行う保育園、学童保育室、一時利用保育室、地域の子育て広場を一体的に備えた、子育てに関する地域の拠点となる東京都内の施設です。近年、割と話題に上がる子ども環境のコンテンツが複合された施設といえます。

特徴としましては、0歳児～9歳児という幅広い年齢の子ども達や訪れる保護者が、1つの建物に集うことによる利点を最大限に活かし、きめ細やかな安全面への配慮を行った上で、異年齢も含めた子どもどうしの相互関係が生まれる諸室の配置としました。具体的には、1階は性格の違う保育室を廊下を介さずに配置し、2階は一時利用保育室と3、4、5歳児保育室との間に学童保育室を配置することで、より良い成育につながる様な子どもどうしの交流や視覚的相互関係を期待しました。

また、敷地の残る既存の樹の保全を考慮し、敷地内のみならず敷地外の既存樹をも囲い込むように円弧を描くことで、建物の輪郭を決定しています。異なる方向に振られた園庭側ルーバーは、反射の度合いによって、大きな曲面を小さなスケールに分割し、園庭で遊ぶ子どものスケールに呼応させています。さらに日射の少ない朝方の日光を有効に導入しながらも、日射の多い昼頃の日光を遮る様、光環境のシミュレーションを行いながらルーバーの方向を決定しています。

室内においては、1階から3階を繋ぐ屋内の連階段を子どもの遊び場としてデザインしており、ここでは、階段の上下の高さを利用した煙突効果による重力換気によ

って、階段内に心地よい風を生みだしながら、換気による健康面への配慮も行っている。さらに、周辺地域を含めた風環境のシミュレーションにより、バルコニー内の風の動きを操作し、子どものためのより良い環境デザイン建築となることを目指しました。

さて現在、工学部では地元・郡山市との本格的な提携が模索されていますが、その一つとして廃校利用による地域づくり等も挙げられ取り組みはじめております。少し性格は違いかも知れませんが、上記のプロジェクトを通して得られた知識や経験、また評価されたチームづくりはもとより、二つのプロジェクトで得られた仲間・チーム力をその様な新たな取り組みにも活かされればと思っております。



写真1 連階段で遊ぶ子ども達



写真2 園庭側から見たバルコニーのルーバー

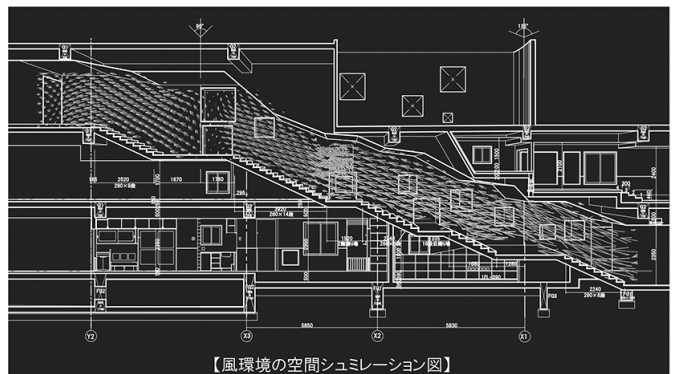


図1 連階段の風環境の空間シミュレーション

## 第31回福島建築文化賞準賞、第35回東北建築賞作品賞受賞 — 会津坂下町立坂下東幼稚園 —

阿部（非常勤講師）・辺見・秋月（非常勤講師）設計共同体＋嶋影＋坂詰＋三瓶＋田中＋鈴木

### ■共同で設計する

会津坂下町から4つの幼稚園を統合した新築の幼稚園と、隣接する既存の中学校を統合小学校に改修するという幼小一貫教育への提案を求めたプロポーザルが公募され、JIA日本建築家協会に所属する福島の建築家8人で参加しました。東日本大震災の数ヶ月前のことでした。私自身、共同提案は初めての経験でしたが、さまざまな意見の中から確かな案へ絞り込まれて行く過程が論理的であったこと、設計時に行われた多くの先生方とのたび重なるワークショップにおいて強力なマンパワーが発揮できたこと、そして設計に関わった建築家全員が将来生かすことができる経験を持ったということが共同設計の大きな収穫であったと感じています。

### ■木で学校をつくる

基本設計時には、学校関係者のワークショップの他に「一般財団法人 木を活かす建築推進協議会」の技術支援を受け、建築計画、木構造、地域材活用、音環境それぞれ4つの議題に対してワークショップを開催しました。特に、地場産材で地元の手がつくる地域に根付いた施設づくりを目指して木材を前年度に分離発注し、先人たちが植え育てた町有学校林を伐採、丸太の皮をむいてそのまま柱や方杖に使用したり、4寸角などの一般材で構造的合理性に基づいた存在感ある木造空間をつくり、子供たちの木への興味を惹きつけようとしてきました。

### ■幼稚園設計主旨

職員室や遊戯室を中心として3歳児棟と4・5歳児棟で園庭を「V字型」に挟み、それぞれの視線が通る配置としました。ガラス屋根の架かった「雁木」がアプローチ空間であり、悪天候時の遊び場（冬期は杉板の雪囲いを取付け）となります。幼稚園の園庭と同一敷地内にある小学校の共有広場をつなぐ階段ブリッジは、防火区画を兼ねた鉄筋コンクリート造でつくり、園舎をまたいで幼稚園と小学校の活発な連携を図ろうとしました。園舎内部は地場産の丸太と一般材を使ったダイナミックな木造空間

の中に、子供のスケールに合わせた多様で小さな空間を対比的に共存させています。

### ■小学校改修設計主旨

中学校校舎を小学校に改修するにあたり、幼稚園と同じ丸太を使ってワークスペースをつくるなどの内部空間の木質化を図りました。このように空間体験を共有・連続させることでスムーズな進学移行ができると考えました。

### ■震災を受けて、確信を持って提案したこと

#### a. エネルギーについて

小学校の地下オイルタンクの交換時期が近づいていたことから、それまで職員室からポタン一つで教室の暖房運転を行っていたシステムを見直し、灯油を燃やすことで部屋が暖まり、使えなくなり灯油置場から運んでくるという当たり前のことを小学生に見せて教えることが必要ではと提案し、受け入れていただいた。新築の幼稚園は自然エネルギーを活用し、地中熱利用のヒートポンプによる床吹き出しの暖冷房によって、ランニングコストの軽減を目指しています。

#### b. 町と子供の教育環境について

町の大人たちと子供たちがもっと近づき、町全体で子供を育て、高齢者も子供から元気をもらえるような関係を築くことが大切と考え、小学校内に児童図書室の他に、町民が利用できる図書室を1階昇降口脇に設けました。（現在運営準備中）

#### c. 子供たちに残すべき建築のあり方

地場産の木をふんだんに使い建築された空間の中で、子供たちは元気に伸び伸びと育っています。我々からの提案で、無塗装で引渡された厚い杉板の床を保護者がつくってくれた米ぬか袋で子供たちは手間隙かけて磨き続けています。隣の小学生が園舎に遊びに来るといった話も聞きました。学校に愛着をもち、大切に使う。彼らが大人になったとき、木でつくられた学校に対する思いは次の世代に確実に引き継がれていくだろうと期待しています。



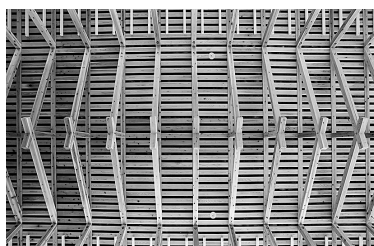
1 遊戯室の窓から小学校、さらには飯豊連峰が見える  
(写真右側には子供の家が並ぶ)



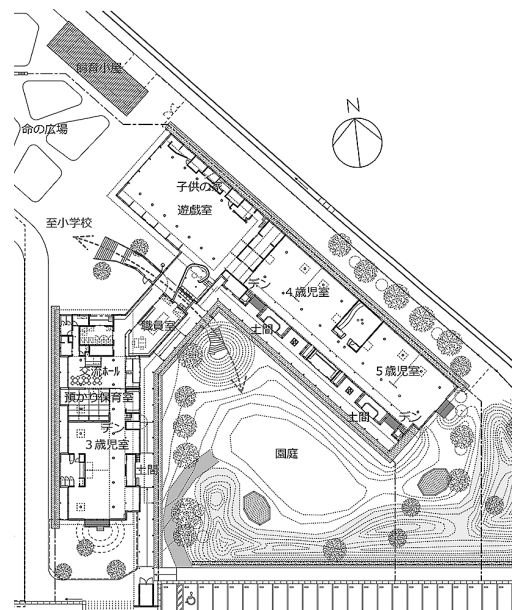
2 丸太の方杖付柱と格子梁が支える保育室



3 園庭と命の広場を結ぶコンクリートの階段ブリッジ



4 遊戯室天井の見上げ（4寸角材のトラス構造）



5 平面図

## アートと建築の創作を通じたFUKUSHIMAの情報発信

浦部 智義 + 浦部 研究室

浦部研究室では、3.11以降、仮設住宅の計画・設計・建設にはじまり、自分達で出来る範囲で様々な復興支援活動を行って来ました。それらは、活動を行っている側が考えているほど実際には効果的でないかも知れないし、余計なお節介かも知れませんが、その実効的な支援以上に難しいのは、(特に)福島以外への情報発信であると思っておりますが、アートを通して我々のチームの復興支援活動を発信することでFUKUSHIMAを理解してもらえる機会がありました。具体的に、その3つの制作・展示活動事例をご紹介しますと思います。

### ■唐櫃美術館 (アートと建築の計画・設計)

我々が唐櫃美術館と名付けたこの私設美術館は、香川県・豊島にある旧海苔工場で、2010年の瀬戸内芸術祭のインスタレーション会場の一つであった訳ですが、この建築との関わりは、その改修に更に手を加える計画・設計からスタートしました(写真1)。その後、3.11以降の福島のことを発信する目的として、建築写真家の作品や我々の仮設住宅以降の様々な取り組みが展示されています(写真2)。ここは常設なのですが、研究室としては特に夏期休暇を利用して、長期間、運営・調査に当たり、何もない時期でも地元の人達の溜まり場となったり、2013年の芸術祭開催時には公式会場でないにもかかわらず多数の来館者がありました。東北以外の来館者でも3.11及びそれ以降の福島に関して関心が高く、逆に直接激励される場面もありました。



写真1

被災地から遠い場所にも関わらずその様なヤリトリが数多く出来たことは、アートや建築が引き出したことか否か定かではありませんが、創作したものに対して反応してもらったことは、震災後暫くして硬直化していた我々の意識をより開いて行く方向に向けさせたのは事実です。我々のためにその様な活動が必要だったのかも知れません。



写真2

### ■2013あいちトリエンナーレ

「復活の塔・木の城郭」というテーマのヒノキ材を螺旋状に積み上げ、そこに被災者の和歌を刻んだ「塔」と、ログハウス仮設住宅で利用したログ材を積み上げてできた壁にペイントを施した「城郭」の2つの大型の作品を、著名なアーティストなどと協働しながら出展したわけで

すが、批判精神も含めてアーティストの純粋さを色んな意味で体感させられました(写真3)。ボリュームはほぼ建築に近かったですが、やはりアートは建築よりも、瞬間的なメッセージ性は強く反応も速い感じでした。ここに、我々が関わり、またこのアートの源となった塔と壁画がある南相馬の仮設住宅地の避難者の方々が訪れて下さり、ここでは、福島の外に出たアートが、内にいる人々を引き出す力になることを実感しました。



写真4

### ■3.11以後の建築展

#### (金沢21世紀美術館光庭：ガラスの内側から)

あの名建築、金沢21世紀美術館の光庭に、3.11以降、仮設建築の計画・設計を契機に我々のチームで開発した『縦ログ工法』の大臣認定のための耐火試験の供試体となった縦ログパネルを一部に利用しながら、様々な大きさのパネルを並立させた作品です。“縦ログ工法”の詳細は紙面の都合上、また別の機会に譲るとして、ガラスで囲われた展示物群が外から注目されながら自立して立っている福島の内側をのぞいているイメージが伝わる様な展示としました。加えて、鉄とガラスの現代的な建築の中にある焼けた木のアートが、復興住宅など福島復興に貢献しながら、今後の建築の可能性を少しでも進展できる様なものに映ってくれることを期待しています。

展示空間以外の場所に展示する面白さと難しさ、それを可能にするフレキシブルな建築のあり方など、建築とアートの関係性を多角的に考えさせられました。鑑賞者としてではなく、作品制作はもとより、搬入・搬出・施工手順など出展する側の利用者としてミュージアムを体感できたのは良い経験でした(写真4)。

他にも、国際交流基金の巡回展で我々のチームの活動を制作したパネル等が世界各地をまわっており、研究室メンバーはアルメニアにも訪問しました。それらも含めて、アートや建築を通して、結局のところFUKUSHIMAをどれくらい伝えられたか、また理解して頂いたか定かではないですが、人の気持ちを動かすことに挑戦・実践したこと、物の記録・アーカイブとして残せたことは意味あることだと感じています。



写真4

# 第57回日本大学工学部学術研究発表会〈建築学部会〉

日時：平成26年12月13日(土)

## 〈建築学部会 第1会場：7033教室〉

- ・竹補強ポリマーセメントモルタルの曲げ性状 ○八木将太郎, 齋藤俊克, 出村克宣
- ・自己修復システムを付与したモルタルの鉄筋腐食に対する抵抗性の検討 ○尾形雅人, Sanjay PAREEK
- ・CO<sub>2</sub>削減を目的としたジオポリマー硬化体の養生条件及びスラグ置換率が圧縮強度に及ぼす影響  
○五十嵐祐太, Sanjay PAREEK
- ・土を主材にした建材の基礎実験 —その1— ○浦憲親(金沢工大), 後藤正美(金沢工大), 鈴木祥之(立命館大)
- ・鉄骨置屋根形式建屋における屋根面ブレースおよび支持部の地震時応答に関する研究  
—その1 建物概要および耐震補強概要— ○浅里和茂, 清水健次, 千葉正裕, 日比野巧
- ・鉄骨置屋根形式建屋における屋根面ブレースおよび支持部の地震時応答に関する研究  
—その2 屋根面ブレースの補強効果および屋根支持部の応答— ○清水健次, 浅里和茂, 千葉正裕, 日比野巧
- ・日本大学工学部製図棟における耐震補強効果の検討 ○須藤 昶, 千葉正裕, 浅里和茂, 日比野巧
- ・分布機構を有する梁要素に関する研究 ○高橋佑弥, 倉田光春, 野内英治, 前島克朗(五洋建設㈱)
- ・せん断変形を考慮した4節点有限要素法による振動応答解析 —剛性及び質量マトリックスの誘導—  
○星 賢護, 倉田光春, 野内英治, 前島克朗(五洋建設㈱)
- ・直接消去法による多自由度運動方程式の動的縮小復元法 ○野内英治, 倉田光春, 前島克朗(五洋建設㈱)
- ・仮想仕事に基づく多自由度運動方程式の動的縮小復元法 ○倉田光春, 野内英治, 前島克朗(五洋建設㈱)

## 〈建築学部会 第2会場：7034教室〉

- ・岩手県釜石市に設置された「KAMAISHIの箱」の計画及び利用実態から見る災害復興まちづくりハウスに関する考察 ○阿部慎也, 浦部智義, 芳賀沼整(東北大院), 滑田崇志
- ・住宅における子ども室の位置付けに関する研究 —大学生を対象とした調査分析—  
○近藤拓馬, 浦部智義, 本杉省三(日大理工)
- ・東北6県における芝居小屋の実態 —東北地方に現存し歴史を持つ劇場空間の役割についての研究—  
○川島慶之, 浦部智義, 渡邊洋一
- ・小学校のオープンスペースにおける家具の設えに関する研究 —新学期に伴う環境づくりとその変容—  
○佐藤いちか, 市岡綾子, 濱田幸雄
- ・東日本大震災に伴う福島県の歴史的建造物の被害と修復について ○伊藤 隼, 速水清孝
- ・ビームフォーミング計測による風車音の測定 ○濱田幸雄
- ・薄金属有孔板の音響放射特性に関する実験的検討 ○多喜翔一, 濱田幸雄
- ・公園内における移動イスの設置方法に関する研究 —移動イス利用の季節差— ○大矢康隆, 土方吉雄, 三浦金作
- ・児童の道草遊びに関する研究 —道草遊びの発生下校路の特徴— ○中谷哲郎, 土方吉雄, 三浦金作
- ・住民主体のまちづくりに対する支援方法 —郡山市本二地区まちづくりWSにおける大学機関の支援方法と効果—  
○山田 瞭, 土方吉雄, 三浦金作

## 平成26年度 日本大学大学院工学研究科建築学専攻 修士学位論文発表会

日時：平成27年2月18日(水) 場所：日本大学工学部 70号館6階 7066教室

1. 岩手県釜石市に設置された「KAMAISHIの箱」の計画及び利用実態から見る災害復興まちづくりハウスに関する考察  
阿部慎也 (指導：浦部智義 准教授)
2. 公園における移動イスの利用特性からみた設置方法について  
大矢康隆 (指導：三浦金作 教授, 土方吉雄 准教授)
3. 木壁住宅の温熱特性に関する研究  
－準寒冷地のログハウス実験棟を用いた分析－  
長内勇樹 (指導：浦部智義 准教授)
4. 住宅における子ども室の位置付けに関する研究  
－大学生を対象とした調査分析－  
近藤拓馬 (指導：浦部智義 准教授)
5. Ant Colony Optimization (ACO) のトラス構造最適化への応用  
高田 潤 (指導：Buntara S.GAN 准教授)
6. 分布機構を有する構造部材に関する基礎的研究  
高橋佑弥 (指導：野内英治 准教授)
7. 移動荷重を受けるFunctionally Graded Material梁の研究  
－異なる2方向に材料変化するFGM梁－  
遠山貴嗣 (指導：Buntara S.GAN 准教授)
8. 児童の道草遊びに関する研究  
中谷哲郎 (指導：三浦金作 教授, 土方吉雄 准教授)
9. 4節点梁要素による平面構造物の有限要素解析法に関する基礎的研究  
星 賢護 (指導：野内英治 准教授)
10. 竹補強ポリマーセメントモルタルの開発  
八木将太郎 (指導：出村克宣 教授)
11. 医局・診察室に関する医師の要求条件に関する研究  
－大規模病院を対象として－  
山口敏弥 (指導：浦部智義 准教授)
12. 住民主体のまちづくりワークショップにおける大学機関の支援方法に関する研究  
山田 瞭 (指導：三浦金作 教授, 土方吉雄 准教授)

## 平成26年度 日本大学工学部建築学科 卒業研究発表会

日時：平成27年2月7日(土) 場所：日本大学工学部 70号館1階 7014教室 (五十嵐ホール)

1. Tabu Searchを用いた大規模組合せ最適化問題の解法に関する研究  
原 崇太 (指導：Buntara S. Gan 准教授)
2. 構造用合板貼付けによる木造耐震壁の一方方向単調水平載加実験  
上ノ内栄一 (指導：野内英治 准教授)
3. 情報棟および周辺地盤における地震動観測  
栗岡亮平 (指導：千葉正裕 教授, 日比野巧 助教)
4. 偏心配置となる高力ボルト接合部耐力に関する実験的研究  
毒島優喬 (指導：浅里和茂 教授)
5. ポーラスコンクリートの圧縮性状  
小島雅史 (指導：出村克宣 教授, 齋藤俊克 助教)
6. ASHSを用いたRC梁部材の開発  
上野 拓 (指導：Sanjay PAREEK 准教授)
7. 日本インテリア近代史に関する調査研究  
渡辺裕貴, 高野祥太 (指導：湯本長伯 教授)
8. 特別支援教育における特別支援学級の教室環境に関する調査研究  
平澤聖子 (指導：松井壽則 准教授)
9. 東北地方の現存する歴史的劇場建築の実態と地域における役割に関する研究  
照沼奈波 (指導：浦部智義 准教授)
10. 応急仮設住宅の遮音性能の改善手法に関する研究  
村上 悠 (指導：濱田幸雄 教授)
11. アーケードのある街路の空間構成に関する研究 (仙台 2014)  
大島崇至, 大塚英輝 (指導：三浦金作 教授)
12. 児童の遊び場に関する調査研究  
鈴木健介, 栗田鉄也, 渡仲紳之助 (指導：土方吉雄 准教授)

## 寄稿論文等

\*届け出があった記事を掲載

## ■国連防災世界会議パブリック・フォーラム「いのちを守るまづくり／家づくり」(主催：日本建築学会、日本建設業連合会、日本建築家協会、日本建築士会連合会、日本建築士事務所協会連合会)

日時：2015年3月14日 場所：仙台市民会館小ホール

- ・土方吉雄, 間野博, 石坂公一, 渡邊浩文, 川崎興太「福島支援小委員会および広域ワーキンググループの活動報告」
- ・岩佐明彦・浦部智義・大月敏雄・市岡綾子「福島県における仮設住宅の現状と課題」
- ・野崎淳夫, 小林光, 一條佑介, 土方吉雄, 吉野博「放射線防護のための都市・住まいの手引き作成WG」
- ・浦部智義, 芳賀沼整「福島県における木造仮設住宅への取り組み ―ログハウス型を中心に―」

## ■その他

- ・浦部智義, 芳賀沼整, 「仮設住宅の再利用の可能性」, 震災ブレイクスルー③, 日本建築学会「建築雑誌」, pp.44~45, 2015年1月号
- ・浦部智義, 芳賀沼整, 「福島県の仮設住宅を取り巻く様相」, 特集「福島：復興の諸相」論考, 日本建築学会「建築雑誌」, pp.36~40, 2015年3月号
- ・土方吉雄「建築の原点に立ち返る ―暮らしの場の再生と革新―」, 特集「知の統合に向けて」, 日本原子力学会誌 Vol.57 No.3(2015), pp.12~15
- ・芳賀沼整, 浦部智義, 「原発事故による中長期避難者への調査分析と対応」, 特集「3.11から4年」震災・原発事故と建築家, 建築ジャーナル, pp.21~25, 2015年3月号
- ・Buntara S.Gan, Thanh-Huong Trinh, Thi-HA Le and Dinh-Kien Nguyen, Dynamic response of nonuniform Timoshenko beams made of axially FGM subjected to multiple moving point loads, Structural Engineering and Mechanics, Vol.53, No.5(2015) 981-995

## 学術発表

\*届け出があった記事を掲載

## ■日本都市計画学会東北支部研究発表会

日時：2015年3月8日 会場：コラッセふくしま

- ・公園内における移動イスの設置方法に関する研究 ―その3 季節差による移動イス利用実態―  
○佐々木基, 土方吉雄, 三浦金作, 薄井良佳, 大矢康隆
- ・公園内における移動イスの設置方法に関する研究 ―その4 移動イス置場設置場所による利用実態―  
○薄井良佳, 土方吉雄, 三浦金作, 佐々木基, 大矢康隆

■浅里教授, 土方准教授が著者として参加した書籍『郡山市史 続編4 通史』(郡山市史編纂委員会, 2014年10月)が刊行された。

■山岸助教の単著『木割表現論』(中央公論美術出版, 2014年12月)が刊行された。

■土方准教授は, 12月10日, 只見町商工会より只見町中心市街地活性化協議会および専門委員会の委員を委嘱され, また, 「只見町観光まちづくりの方向」と題して基調講演された。

■浦部准教授は, 12月22日(月)に都市住宅学会の震災研究会において『ログハウス型仮設住宅の実践と復興に向けた取り組み』と題して特別講演された。

■土方准教授+土方研究室は, 12月23日~1月30日, 只見町商工会より「街並み景観形成ワークショップ」2回と「拠点施設づくりワークショップ」3回の企画運営を依頼された。

■平野非常勤講師と浦部准教授+浦部研究室が計画・設計に関わった, 『かつしか風の子保育園・学童クラブ』が, 建築ジャーナル12月号「こども施設特集」に掲載された。

■浦部准教授は, 1月7日(水)に東京大学大学院工学系研究科にて『復興建築計画論』の特別講義された。

■浦部准教授+浦部研究室が計画・設計に関わった『「地形舞台」―中

山間地過疎地域に寄り添う集落づくり拠点』が, 1月23日に平成26年度(第31回)福島県建築文化賞(特別部門賞)を受賞された。

■佐藤いちか君(M1), 村上セツ佳君(3年), 渡部昌治君(2年), 眞船峻君(2年)は, 2月14日, 15日, 28日, 郡山市中央商店街振興組合主催の「空き店舗リノベーション会議」に応募し選考され, 事業計画策定に参画した。

## 教室ニュース

■土方准教授は, 2月16日, 福島県建築設計協同組合より「(仮称)伊達市保原学校給食センター新築工事基本設計業務委託」選定プロポーザル審査委員会を委嘱され, 委員長に選出された。

■押田和将君(4年), 栗田鉄也君(4年), 古賀将太君(4年), 佐々木基君(4年), 遠藤達也君(3年)は, 2月21日, 郡山市とNPO法人ふくしまユニバーサルデザインの協働による「ユニバーサルデザインまちなか探検隊」のグループリーダーを依頼された。

■浦部准教授+浦部研究室のログ構

法の開発・研究とその計画・設計等の実践に関する一連の活動が, 住宅建築2月号で『ログ構法の射程・可能性』として特集された。

■浦部准教授は, 日本建築学会刊: 建築雑誌3月号『特集 福島: 復興の諸相』の特別招聘委員として編集・監修を行われた。

■浦部准教授は, 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業において, 『パッシブデザインコンセプトに基づく住環境デザインの確立』として報告書を作成された。

■土方准教授は, 3月11日, 会津美里町商工会より中心市街地活性化協議会セミナーの講師を依頼され, 「会津美里町の中心市街地のまちづくり」と題して講演された。

■浦部准教授は, 3月15日(日), 第4回ロハスの工学シンポジウム「郡山市と日大工学部が目指すロハスの地域づくり」において, 『廃校の利用を契機としたロハスの地域づくり』と題して発表し, その後のパネルディスカッションのパネラーとして参加された。

■鈴木教授+浦部准教授+浦部研究室は, 3月30日(月), 夢発見サイエンスツアー in 日大工学部において, 『みんなで作ろう! 模型でまちづくり』と題して体験型ワークショップを行われた。

## 平成26年度 卒業式・修了式における表彰者

平成27年 3月25日

## ◇齋藤賞◇

修士論文「4節点梁要素による平面構造物の有限要素解析法に関する基礎的研究」 星 賢護（指導：野内英治 准教授）

## ◇北桜賞◇

修士論文「木壁住宅の温熱特性に関する研究－準寒冷地のログハウス実験棟を用いた分析－」  
長内勇樹（指導：浦部智義 准教授）

## ◇桜建賞◇

卒業設計「見えない囲い－施設の面的解体－」 中島 希（指導：浦部智義 准教授）

卒業論文「Tabu Searchによる大規模組合せ最適化問題の解法に関する研究  
－杭の最適配置問題への応用とその有効性について－」 原 崇太（指導：Buntara S. Gan 准教授）

卒業論文「ポーラスコンクリートの圧縮性状」 小島雅史, 佐藤進悟（指導：出村克宣 教授, 齋藤俊克 助教）

卒業論文「特別支援教育における特別支援学級の教室環境に関する調査研究  
－特別支援学級の児童と教諭の行動特性及び使用された空間について－」  
平澤聖子（指導：松井壽則 准教授）

卒業論文「応急仮設住宅の遮音性能改善に関する研究」  
戸井田翔吾, 豊島隆明, 中村宗司, 村上 悠（指導：濱田幸雄 教授）

## ◇優等賞◇ 小林寛大, 沈 得程, 渡仲紳之助

## ◇工学部長賞◇

学術・文化部門：築山茉由子 第18回 J I A 東北建築学生賞（社団法人日本建築家協会東北支部主催）優秀賞受賞

作品名「街のいえ－分節感と一体性－」

体育部門：村上 悠 第55回全日本理工科学生柔道優勝大会（全日本理工科学生柔道連盟主催）

団体準優勝

## ◇父母会賞◇ 原田恭輔, 渡辺裕貴

## 平成26年度卒業設計コンクール・展示会等出展作品

本年度の卒業設計展は、2015年2月6日(金)・9日(月)・10日(火)の3日間にわたり、70号館1階7012・7013教室にて開催され、例年より多めの34作品が出展された。10日の午前にはポスターセッション形式で、午後には公開形式でプレゼンテーションが行われた。また、2月18日(水)～20日(金)の3日間、ビッグアイ6階を会場に、外部卒業設計展等への出展作品を含む全10作品による学外展示会を開催した。

### 外部卒業設計展示会・学外展示会等出展作品一覧

## ■日本建築家協会「全国学生卒業設計コンクール2015」

中島 希（指導：浦部智義 准教授）  
作品名：見えない囲い－施設の面的解体－

## ■近代建築「卒業制作2015」

高橋 唯（指導：浦部智義 准教授）  
作品名：くりでんとでんえん－使われている風景－

## ■日本建築学会「全国大学・高専卒業設計展示会」

穴戸 啓（指導：速水清孝 准教授）  
作品名：祈憶

## ■日本インテリア学会「第22回卒業作品展」

古賀将太（指導：土方吉雄 准教授）

作品名：部屋タワー－住宅の新たな概念の創出－

## ■レモン画翠「第38回学生設計優秀作品展」

鈴木啓恭（指導：浦部智義 准教授）

作品名：内から外へ－オオヤの可能性－

## 学外展示会出展作品（上記作品の他に下記5作品）

小林晴人（指導：速水清孝 准教授）

作品名：歩禅庵－住を考えるための家－

海老名剛東（指導：湯本長伯 教授）

作品名：熱海アートシーンに光をさす

－その1

時代が求める新しい美術との交わりの場合－

萩野谷友香（指導：湯本長伯 教授）

作品名：熱海アートシーンに光をさす

－その2

時代が求める新しい美術とのきっかけの場合－

清水川慶堯（指導：速水清孝 准教授）

作品名：フィッシュストーリー－消費型水族館－

泉 明迪（指導：浦部智義 准教授）

作品名：高高低低若－まちと密度－